

# CCRCのまちなか展開の可能性と課題

—「クロッセ秋田」の事例から—

白木 智 昭

伊藤 慎 一

## A Study on the first CCRC “CROSSE AKITA” in Akita-City

USUKI, Tomoaki

ITO, Shinichi

### Abstract

This paper is a study on the first CCRC (Continuing Care Retirement Community) “CROSSE AKITA” in Akita-City as an example.

First, we survey papers of CCRC in Japan, and analyzed impact to community. In addition, we research expectations for CCRC based on the report by Akita Prefectural Government, and we estimate effects of the “CROSSE AKITA” that impacts to central area of Akita-City.

As a result, it became clear that CCRC impacts to community and regional economy. It is an important factor in creating revitalization of the regional community from the perspective of regional management.

**Key Word:** CCRC. Central Area in Akita-City. Creating Revitalization. Regional Community.

### 1. はじめに

2020年10月に秋田県で初となる本格的なCCRC拠点施設「クロッセ秋田」が完成し、関心を集めている。

CCRC (CCRC: Continuing Care Retirement Community) は、サービス付き高齢者向け住宅 (以下「サ高住」) として、従前より注目されてきた施設である。さらに近年では、これと大都市圏からの移住促進とを連動させることで、地域活性化への効果も期待されている。

秋田県では「秋田県版生涯活躍のまち構想」(秋田県 [2017]) を策定し、CCRCの整備促進とまちづくりを一体的に推進することにより、相乗効果を発揮させることを目指している。

人口減少や高齢化の進行による地域の賑わいや活力の低下は、地域の持続性への懸念材料となっている。地域の持続性は「地域経営」の根幹であり、その維持は最優先事項といえる。

そこで本研究では、クロッセ秋田を事例として、CCRCがもたらす地域コミュニティや経済へのインパクトを検討し、地域のにぎわい創出や活力創出への可能性について検討する。

まず、わが国におけるCCRCに関するこれまでの議論をもとに、CCRCが有する様々な機能や地方への展開可能性について整理する。

また、「秋田県版生涯活躍のまち構想」(秋田県 [2017]) をもとに、CCRCが地域コミュニティや地域経済にもたらす影響や効果について検討を行う。

続いて、「クロッセ秋田」を事例に、予定されている取り組みにより期待される効果を考察する。特に、秋田市の中心市街地における賑わいや活力の創出といったことに加えて、地域経済へのインパクトについても推計を試みる。

### 2. CCRCに関するこれまでの議論

CCRCとは、「高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体」のことで、アメリカでは約2,000ヶ所存在し、居住者は75万人と推計されている。(まち・ひと・しごと創生本部 [2015a])

今後わが国においては、高齢者数の急速な増加が予想されているが、とりわけ人口が多い「団塊の世代」が後期高齢者へと移行することで、現行の医療・介護の体制では十分に満たすことのできない、質の高い多様なケア・サービスのニーズの発生が見込まれている。

特に人口が集積する大都市圏の高齢者のニーズを踏まえた、新しい医療・介護サービスのあり方として、「日

本版 CCRC」が政策課題として議論されてきた。(まち・ひと・しごと創生本部 [2015a])

例えば、日本版 CCRC 構想有識者会議は「希望する高齢者が健康時から移住し、自立した社会生活を継続的に営める「日本版 CCRC」の導入」に向けた検討を行っている。(まち・ひと・しごと創生本部 [2015b])

一方地方圏では、地域活力の衰退に歯止めをかける方策として、「日本版 CCRC」構想が注目されている。

例えば、高齢化率と人口減少率がともに全国トップである秋田県では、「秋田版生涯活躍のまち構想」を策定し、CCRC の積極的な導入を目指し、調査研究等への支援を行っている。(秋田県 [2017])

秋田県では、「日本版 CCRC」構想を踏まえ、地域モデルとして「地域住民による互助・共助の仕組みや空き家など本県ならではの地域資源を活用した多様な住環境の整備等を基本コンセプト」として打ち出している。(秋田県 [2017])

具体的には、中心市街地での整備を想定した「まちなか型」と、田園地域での整備を想定した「郊外型」等、地域特性に応じた整備を提言している。

秋田県の構想に象徴されるように、地方圏での CCRC の整備構想は、大都市圏からの移住や地域内での住み替えのニーズを有する高齢者層をターゲットとして「サ高住」を整備し、人口減対策と地域活性化への効果を期待している点が特徴と考えられる。

### 3. 先行研究からみた CCRC の機能

前述したように、わが国での CCRC への関心は従前から高く、先進的な取り組みも行われている。そして、地域に及ぼす効果や地方圏での整備の課題等について、専門家による検証も蓄積されつつある。

そこで以下では、近年の研究をもとに、「日本版 CCRC」の地方での展開可能性や地域活性化にもたらす効果、さらに整備を促進する上での課題を整理してみたい。

まず高橋 (2016) は、わが国初の CCRC と称される「スマートコミュニティ稲毛」を事例として、アメリカで始まった CCRC を日本に取り入れるために留意すべき点を検討している。

それによれば、「地域包括ケアシステムの取り組みと合わせて、少子高齢社会における高齢期の住まい方」として CCRC を捉える必要を提唱している。(高橋 [2016], pp8-9)

同様に森 (2019) は、「日本版 CCRC」の代表的な施設である「Share 金沢」と「輪島 KABULET」を事例として、「高齢者にとっての「生涯活躍のまち」というコンセプトは、政府が打ち出す「地域まるごとの支援（地

域包括ケアシステム）」を具現化したものである」と評価している。(森 [2019], pp.52-54)

さらに森は、CCRC は高齢者に対するケア・サービスとの親和性があると同時に、地域による高齢者支援の枠組みとの連動が可能である点を示唆している。

この点について新田 (2016) は、地域包括ケアシステム構想の現状と課題について検討した上で、CCRC 構想が地域包括ケアシステムを補完する可能性を指摘している。

新田は「地域包括ケアシステムの地域の捉え方には、地方移住により構築される人的な繋がりが含まれる」として、「日本版 CCRC 構想と地域包括ケアシステムが融合することで、単なる人口減少と高齢化の対応策というだけでなく、元気な高齢者や要介護状態の高齢者が、より良い支援を求めた地方への移住の選択肢となってくる」と期待を述べている。(新田 [2016], pp.80-81)

一方、高尾 (2018) は、地方圏で複数の施設を展開する「ゆいま〜る」シリーズを事例として、「日本版 CCRC」の地方展開の可能性を検証している。

それによれば、「地方移住に注目するのではなく、医療や介護が必要になった際に求められる地域包括ケアの拠点を地域と連携して整備することが、高齢期の住まいの選択肢を増やし、地域まちづくりにもつながる可能性がある」と提言している。(高尾 [2018], pp.89-91)

さらに大橋 (2017) は、地方圏に位置する代表的な 5 つの施設を取り上げ、CCRC は「高齢者移住だけでなく、地方創生の仕掛けとして活用されており、地域のかかえる課題の総合的な解決が目指されている」と分析している。(大橋 [2017], pp.116-117)

とりわけ「①まちづくり会社、②青年海外協力隊 OB や学生のフィールドワークとの連携、③空き家の借上げ及び改修といった新たな手法」を活用することで、より効果的な展開が期待できるとしている。(大橋 [2017], pp.122-124)

地方圏での CCRC を展開する上での課題として、例えば黒田 (2017) は、山梨県のような地方圏においても「CCRC を展開できる可能性が高い」ものの、「同時に CCRC の基本的な考えが必ずしも十分に理解・共有されておらず、解消しなければならない」と課題を指摘している。(黒田 [2017], pp.76-77)

また、齊藤・中城 (2016) は、アメリカ・カリフォルニア州を事例として、CCRC での居住の安定のためには、行政関与の必要性を訴えている。

アメリカでは行政が「経営の安定の視点から、事業計画の立案やその後の運営にも関与し、情報開示の推進により市場を整備している」として、わが国の CCRC 整備でも参考にすべきであるとしている。(齊藤・中城

[2026], pp.90-92)

まちづくりと連動することによる効果については、日本政策投資銀行は、わが国では CCRC 構想を「まちづくり政策」として捉え、国内では地域の特色や地域資源を活かした構想が展開されているとして評価している。(日本政策投資銀行 [2017], pp.68-69)

特に、情報技術の進歩やインフラ整備により、地方圏への移住のハードルが低下しているとの期待を示している。

しかし、既存の移住政策や産業振興政策のてこ入れ策といった短期的な成果にとらわれず、地域包括ケアシステム等と連動することにより、地域課題の解決を図る手段として長期的な視点での取り組みが必要であることを指摘している。

#### 4. 「クロッセ秋田」の概要と期待される効果

2020年10月に秋田県で初となる本格的な CCRC 拠点施設「クロッセ秋田」が完成した。

以下では、「クロッセ秋田」を事例として、高齢化が急速に進行する地方圏における、CCRC に期待される機能や効果を検討する。

なお、「クロッセ秋田」に関する情報やデータは、北都銀行営業推進部地方創生室へのインタビュー及び現地調査(2020年11月26日実施)、並びに関連資料(北都銀行監修 [2020], 秋田県 [2018])に基づくものである。

##### (1) 「クロッセ秋田」の概要

「クロッセ秋田」は、JR 秋田駅西口から徒歩4分の中心市街地に立地する、地上17階のビルの形態となっている。(図表1, 図表2, 図表3, 図表4)

延床面積は約8,000m<sup>2</sup>で、1～4階には金融機関(北都銀行, 秋田信用金庫)の支店、内科や歯科等の医療機関、調剤薬局、カフェ、CATV等が入居する。

入居者向けサービスとしては、秋田大学医学部保健学科と連携した心身の健康相談に対応する「暮らしの保健室」、NPO 法人と連携した遺産相続や葬儀・墓所等の相談に応じる「終活支援相談室」が設けられている。

また、入居者の交流や自治活動のための共有スペースとして「地域交流スペース」が設置されている。

5～17階は分譲マンション60戸として販売され、既に完売している。

入居者は約120名を予定しており、平均年齢は61歳、秋田県外からの移住者は15%、秋田県内の住み替えが85%(うち秋田市内からの住み替えは55%)となっている。

「クロッセ秋田」の特徴は、①民間企業のみで事業化された CCRC 拠点施設であること、②中心市街地に整

図表1 「クロッセ秋田」の概要

■敷地概要	
所在	秋田市中通二丁目5-1他
用途地域	商業地域
地域地区	防火地域
敷地面積	1,078m <sup>2</sup> (登記簿面積)
■計画概要(案)	
用途	銀行・信金の支店、薬局、地域共用スペース、暮らしの保健室、クリニック、訪問介護ステーション、エステサロン、分譲住宅、駐輪場
規模	地上17階
構造	鉄筋コンクリート造
建築面積	約750m <sup>2</sup>
延床面積	約8,000m <sup>2</sup>

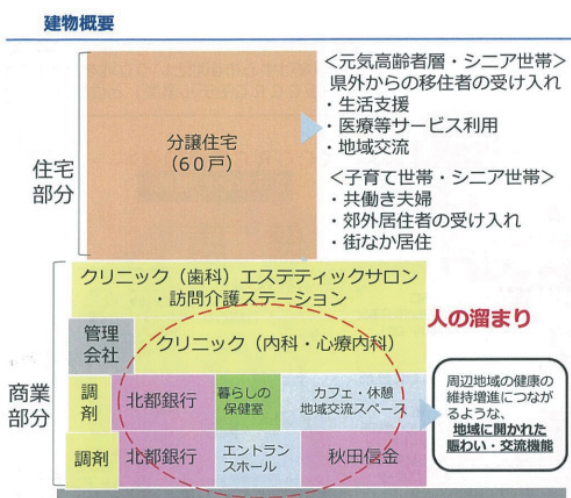
(資料) 秋田県 (2018)

図表2 「クロッセ秋田」の拠点整備イメージ



(資料) 秋田県 (2018)

図表3 「クロッセ秋田」の建設概要



(資料) 秋田県 (2018)

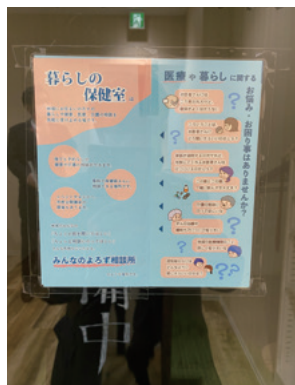


図表4 「クロッセ秋田」の内部

地域交流スペース



暮らしの保健室



相談スペース（北都銀行）



カフェ（テナント）



(2020.11.26 筆者撮影)

備された「まちなか型」のCCRC拠点施設であること、③サ高住の主要機能である保健・医療サービスを民間・NPO・大学等の地域の関係機関との連携により提供している点があげられる。(北都銀行営業推進部地方創生室)

## (2) 「クロッセ秋田」の事業コンセプト

「クロッセ秋田」の整備目的として、①市街地の活性化、②住民の健康増進、③上質な住まいの提供があげられている。(北都銀行営業推進部地方創生室)

そうした目的を達成するため、以下の3つのコンセプトに基づいた拠点整備が予定されている。

- ①移住定住の促進、地域包括ケアシステムの拠点機能、生涯活躍・地域交流等の機能担う「日本版(秋田版)CCRC」拠点
- ②まちなか型CCRC拠点として、中心市街地での整備によりコンパクトシティの形成に寄与する
- ③ICTの活用に加えて、秋田大学、NPO等との連携によるスマートウェルネスの実現

## (3) 期待される地域活性化への効果

「クロッセ秋田」の整備により期待される効果としては、秋田駅西口から徒歩4分という中心市街地に立地し、60戸120人が新規にまちなかに居住することで、地域の賑わい創出が期待される。

入居者の多くは、健康でアクティブなシニアであり、趣味や学びに対する興味と、各種のアクティビティへの高い参加意欲が予想される。

こうした活動を通じて、多世代にわたる地域住民との交流が実現することで、中心市街地での賑わいの創出や新しいコミュニティの形成につながるものと期待される。

また、健康相談(暮らしの相談室)や医療機関等のサービスの提供に加えて、ICT(タブレット)を活用したバイタル管理、近隣のフィットネスクラブと連携した健康維持・増進プログラム等のサービスの提供が予定されている。

図表5 クロッセ秋田の整備による経済波及効果

1 費用想定 (単位: 百万円)			
①クロッセ秋田建設費	3,000		
②入居者消費額 (200千円/月×60世帯×12ヶ月)	144		
2 最終消費額 (単位: 百万円、率)			
最終需要増加額	3,142		
うち県内需要増加額	3,099		
消費転換率	0.58		
消費転換率: 令和元年家計調査(秋田市)より			
3 推計結果 (単位: 百万円)			
	生産誘発額	租付加価値誘発額	雇用者所得誘発額
直接効果	3,099	1,490	1,091
第1次波及効果	888	484	266
第2次波及効果	626	399	164
総合効果	4,613	2,373	1,521
波及効果倍率(倍)	1.47		

(資料) 秋田県(2020)

さらに、CCRC 居住者以外の住民にもサービスを開放することで、中心市街地に居住する高齢者の健康の維持・増進にも寄与すると考えられる。

こうした高齢者の健康管理に関する知見の蓄積は、秋田県全域での高齢者向けの ICT を活用した健康維持・増進に向けた、効果的なプログラムの普及にもつながっていくことが期待される。

加えて、居住者による消費活動は、中心市街地における経済的な効果をもたらすことが予想される。

## 5. 「クロッセ秋田」の経済効果の推計

「クロッセ秋田」の居住者は、新規に中心市街地に移住することから、消費活動を通じて、地域経済へも効果をもたらすことが期待される。

以下では、「クロッセ秋田」がもたらす地域経済への効果を検討する。

### (1) CCRC 整備による高年齢者の移住の受け入れの効果の推計

CCRC の整備は、当該地域の人口増加には寄与するが、後年には入居者の加齢に伴い医療・介護サービスの負担の増加も予想される。

そこでまず、秋田県の策定した「秋田県版生涯活躍のまち構想」（秋田県 [2017]）をもとに、CCRC が秋田県内に整備された場合に想定される経済効果と、高齢者の増加に伴う地域の公的負担を整理してみたい。

秋田県では、中高年齢者の CCRC への移住に伴う経済効果をシミュレーションしている。

県外からの移住者の受け入れ時期、人数、年齢層を3つのケースに分けて、それぞれの効果を推計している。（秋田県 [2017]）

基本型では、オープン初年度に 50～79 歳の 25 人が秋田県内の CCRC に移住する設定となっており、移住者の消費活動に伴う経済波及効果を分析している。

同時に、移住者の加齢に伴い、疾病の増加や要介護度の上昇を想定し、それに伴う受け入れ市町村の医療・介護費の負担増加を分析している。

こうした移住者の消費活動に伴う経済波及効果と、社会保険収入や市町村民税の増加について、入居者が居住すると想定される期間（50 年間）での累計としての金額を推計している。

推計結果は、CCRC の導入により入居者の消費活動に伴う 52.2 百万円の経済波及効果が見込まれる一方、受け入れ市町村における医療・介護費の負担増加については、社会保険料収入や市町村民税の増加で賄うことができるとしている。<sup>1)</sup>

### (2) 「クロッセ秋田」の整備による経済波及効果

秋田県の推計では、CCRC の整備は、当該地域にネットでの便益をもたらすと結論付けている。

50 年間に及ぶ長期間での推計については、推計手法や前提とする疾病率や要介護率、社会保障制度等を十分検証する必要はあるが、CCRC 整備の一つの目安としては有用であると考えられる。

そこで以下では、「クロッセ秋田」の整備に伴う、経済的な効果に限定して独自の推計を試みたい。

まず、建設費については、正確な金額は明らかにされていないため、マスコミによる報道をもとに概算で 30 億円と想定する。<sup>2)</sup>（日本経済新聞 電子版 [2018/9/13]）

さらに、入居者 60 世帯 120 人の消費額については、秋田県推計のように長期にわたる効果ではなく、本研究では CCRC 整備によるインパクトの推計することを目的として、入居初年に想定される消費額のみを計上する。

具体的には、家計調査の 2 人以上の高齢者無職世帯における月額消費支出（全国平均で 243 千円）をもとに、秋田県内の物価水準を考慮して、1 世帯月額 200 千円とし、60 世帯合計で年間 144,000 千円と想定した。

推計は、平成 27 年秋田県産業連関表「経済波及効果分析ツール（汎用版・15 部門分類）」を利用して行った。<sup>3)</sup>

前述の想定により、最終需要増加額は 3,142 百万円となり、このうち県内需要増加額は 3,099 百万円と推計される。直接効果は 3,099 百万円、第 1 次波及効果は 888 百万円、第 2 次波及効果は 626 百万円、総合効果は 4,613 百万円と推計された。（図表 5）

需要増加額 3,142 百万円に対する総合効果 4,613 百万円の比率である「波及効果倍率」は 1.47 倍という結果となった。

類似の推計との単純な比較は難しいが、例えば金足農業の甲子園準優勝の経済波及効果 104 億円（日本経済新聞 電子版 [2018/10/24]）、今年のコロナ禍による夏祭り中止による経済損失 149 億円（秋田魁新報 電子版 [2020/8/19]）、DMO「秋田犬ツーリズム」発足から 3 年間での秋田県観光への経済効果 41 億円（日本経済新聞 電子版 [2020/2/19]）等と比較すると、「クロッセ秋田」の整備は、初年だけでも 46 億円と大きなインパクトを秋田県経済にもたらすと推測される。

### (3) 地域コミュニティにもたらす影響

「クロッセ秋田」は入居者 60 世帯 120 名だけでなく、金融機関、医療機関、商業施設等の従事者を含めると、約 200 名の昼間人口が新規に創出されることになる。

これまで秋田市の中心市街地では、商圏人口の減少や商業施設の撤退に伴い、買い物弱者の増加や賑わい消失

の問題が指摘されていた。

この新しいコミュニティの出現は、中心市街地の経済や賑わいの創出といった面で大きな影響を及ぼすことが予想される。

まず、中心市街地が「高齢者の住まいの選択肢」として再評価される可能性である。

例えば、「クロッセ秋田」が医療・介護機関、フィットネス、ICT事業者と連携することにより、医療・介護・健康維持に関する各種サービスが中心市街地に集積されることで、相互利用による健康維持・増進のノウハウが蓄積されていくことが見込まれる。

「クロッセ秋田」は、中心市街地においても高齢者が質の高いサービスを受しながら、快適に居住することが可能であることを示し、CCRCの追加的な整備の促進や、高齢者のまちなか移住への関心が高まることが期待される。

さらに、CCRCには趣味や学びに関する意欲の高いアクティブなシニアが多いと考えられることから、地域の関係機関と連携することにより、高齢者向けのイベント、カルチャー教室、大学の教養講座等を開催することも可能である。

例えば、多世代間での交流を目的としたイベントや歴史散策・街歩きの開催、ボランティア団体による高齢者へのサポート、秋田大学をはじめとした大学との連携による教養講座の開設や学生との交流等により、高齢者の生きがいと意欲を高める機能を有したセンターとしての役割も発揮できる。

加えて、地域の商店街、百貨店、コンビニ、飲食店等の商業施設との連携により、中心市街地での賑わいが創出される可能性もある。さらに、今後CCRCの拠点整備が同一エリアで進むならば、中心市街地への人口回帰が定着し、高齢者向けのビジネスの集積も期待できる。このように「クロッセ秋田」は、中心市街地活性化の仕掛けとして活用される機能を有した施設であると考えられる。

しかし、「クロッセ秋田」がこうした機能を発揮するためには、建設・管理企業やマンション管理組織だけでなく、サ高住であるCCRCとしての運営体制の構築と、地域コミュニティへの積極的な働きかけが必要である。

「クロッセ秋田」では、北都銀行を中心として、整備段階から商工会議所、県・市等による「まちづくり協議会」を組織し、地域コミュニティへの情報提供、移住者と地域住民との交流に向けた仕掛けづくりに着手している。(北都銀行営業推進部地方創生室)

「クロッセ秋田」が有する多様な機能について、地域との相互理解と情報共有が進むことで、中心市街地における既存のコミュニティの活性化や魅力づくり向上にも

つながっていくと考えられる。

## むすび

これまでみたように、CCRCは地域のにぎわい創出や活力創出といった面で、地域に大きなインパクトをもたらすことが期待される。

秋田県内で初めての本格的CCRC拠点施設である「クロッセ秋田」は、建設に伴う経済効果に加えて、まちなかへの新規移住者の増加による消費面での効果、さらに地域コミュニティや地域の賑わい創出の面でも効果が予想される。

しかし、こうした効果は、単にCCRCを増設さえすれば得られるものではない。地域への効果を生み出すためには、事業者、住民、ボランティア団体、大学等の地域コミュニティを形成する関係機関が、CCRCの入居者や入居テナントとの連携や交流を意識的に働きかけていく必要がある。

さらに「クロッセ秋田」は、民間事業者のみで整備・運営される施設である点にも、配慮が必要である。

民間主体であることは、施設利用や運営面での自由度が高い反面、地域コミュニティへの情報提供や相互交流への誘因が働きにくいと考えられる。

その意味では、CCRCと地域とが「相互理解」を深めながら、双方のニーズや課題を確かめて、負担感の少ない領域・分野から「相互交流」を進めていくべきであろう。

CCRCの入居者が疎外感を感じることなく、地域コミュニティの新しいメンバーとして定着するための取り組みは、地域経営の観点からは新しい課題ではあるが、地域にとっては新しい可能性への挑戦でもある。

## 注

- 1) 他の2つのケースでは、居住者の移住する期間や年齢に差異を設けているが、いずれのケースでも、同程度の経済波及効果が期待され、医療・介護費の負担増加についても税込の増加で賄うことが可能であり、秋田県内の市町村においてCCRCを導入するメリットが大きいとしている。(秋田県[2017])
- 2) 医療機関や商業テナント等の入居に伴う工事費用やそれらの従業員の消費支出等も加味する必要があるが、それらのオープン時期や従業員数等のデータが不明であるため、本推計からは除外した。
- 3) 入居者の消費額は、家計調査の消費項目を参考にして、平成27年秋田県産業連関表における15部門に配分した。



## 参考文献

- 大橋美幸 (2017) 「地域問題解決の仕掛けとしての生涯活躍のまちの活用」『函館大学論究』49, pp.115-128, 函館大学図書館。
- 黒田浩司「山梨における CCRC の可能性と課題」『山梨英和大学紀要』16, pp.65-77, 山梨英和大学。
- 齊藤広子・中城康彦 (2016) 「アメリカ・カリフォルニア州における CCRC の居住の安定のための行政関与と運用実態」『都市住宅学』95, pp.88-93, 都市住宅学会。
- 新田博之「地域包括ケアシステムと日本版 CCRC 構想」『鹿児島国際大学大学院学術論集』8, pp.77-82, 鹿児島国際大学大学院。
- 高尾真紀子 (2018) 「日本版 CCRC の課題と可能性：ゆいま〜るシリーズを事例として」『地域イノベーション』10, pp.85-93, 法政大学地域研究センター。
- 高橋昌子 (2016) 「元気高齢者が生き生きと暮らせる住まい方：日本版 CCRC の事例より」『福祉臨床学科紀要』13, pp.7-14, 神戸親和女子大学福祉臨床学科。
- 森洋子 (2019) 「地域包括ケアシステムにおける共生社会実現の課題」『経営情報イノベーション研究』8, pp.43-57, 静岡県立大学経営情報イノベーション研究科。

## 参考資料

- 秋田県 (2017) 「秋田県版生涯活躍のまち構想」。
- 秋田県 (2018) 「秋田県版生涯活躍のまち構想の推進について」。
- 秋田県 (2020) 「平成 27 年 (2015 年) 秋田県産業連関表」。
- 秋田魁新報 電子版 (2020/8/19) 「祭り中止の経済損失、秋田県は 149 億円」。
- 秋田不動産サービス・大京・ミサワホーム (2020) (監修：北都銀行) 「クロッセ秋田：秋田版 CCRC プロジェクト」。
- 総務省 (2019) 「家計調査報告 (家計収支編)」。
- 日本経済新聞 電子版 (2018/9/13 21:00) 「元気な高齢者 秋田に來たれ 北都銀主導の居住拠点着工」。
- 日本経済新聞 電子版 (2018/10/24 22:00) 「金足農業の活躍、経済効果 104 億円 日銀秋田支店が試算」。
- 日本経済新聞 電子版 (2020/2/19 14:31) 「秋田犬ツーリズム, 3 年間の経済効果 41 億円」。
- 日本政策投資銀行 (2017) 「日本版 CCRC から「生涯活躍のまち」：進む地方への移住誘致施策と地域活性化政策」。
- まち・ひと・しごと創生本部 (2015a) 「ひと・まち・しごと創生基本方針 2015」。
- まち・ひと・しごと創生本部 (2015b) 「日本版 CCRC 構想 有識者会議 第 1 回資料 (平成 27 年 2 月 25 日)」。